

2 後期実践方策

平成23年度で金沢魅力発信行動計画の中期が終了することから、施策の柱ごとに中期までの各種施策の進捗状況等について評価するとともに、負の影響（※）の抑制も念頭におきながら、新幹線の開業1年後となる平成27年度末までを目処に、特に重点的に取り組みべき施策を打ち出し、行動計画の「後期実践方策」として取りまとめました。

※負の影響：経済面における「活力・拠点性の低下」（企業の撤退・統廃合、ビジネス客等の日帰り化など）
生活・文化面における「金沢らしさの喪失」（ミニ東京化、景観・生活環境の悪化、固有の文化・情緒の衰退など）
〔平成22年度「北陸新幹線開業により懸念される影響対策会議」報告より〕

1 金沢魅力発信行動計画の中期評価

〔主要施策〕98項目と〔実施すべき施策〕135項目、計233項目について進捗を点検して、今後の課題について整理しました。

主要施策
スケジュールを記載している施策

実施すべき施策
主要施策以外の施策

〔評価区分〕

主要施策 S：達成済（当初どおり） A：達成済（一部修正）
B：一部達成（1年程度遅れ） C：未達成（2年以上遅れ）
実施すべき施策 A：達成済（事業化済） B：一部達成（検討中） C：未達成

柱	主要施策						実施すべき施策				進捗率	計 進捗率
	項目数	S	A	B	C	進捗率	項目数	A	B	C		
1	32	27	2	2	1	96.9%	30	26	3	1	96.7%	96.8%
2	16	12	4	0	0	100.0%	13	12	0	1	92.3%	96.6%
3	26	24	1	0	1	96.2%	22	20	0	2	90.9%	93.8%
4	9	5	3	1	0	100.0%	12	7	2	3	75.0%	85.7%
5	13	12	1	0	0	100.0%	42	35	5	2	95.2%	96.4%
6	2	2	0	0	0	100.0%	16	16	0	0	100.0%	100.0%
計	98	82	11	3	2	98.0%	135	116	10	9	93.3%	95.3%

計画全体の進捗率は、95.3%となり、概ね予定どおり、順調に進められています。しかし、豊かな都市環境の維持・活用（柱2）では、いわゆるストロウ現象等による定住人口の減少を招かないための施策が具体化されておらず、まちの賑わい創出・ものづくり基盤の強化（柱3）では、まちの拠点性を高めるための受け皿となる都心軸の再整備に遅れが生じています。

また、プロモーションの強化（柱5）は、主要施策と実施すべき施策の項目数に偏りがあり、開業気運の醸成による市民との協働によるもてなし力の向上（柱6）は、主要施策の項目数が過少といえ、これらについては、今後、より計画的に取り組みを進めていく必要があります。

2 カウントダウン・ミッション

3年後の新幹線開業に向けて、その効果を最大限に引き出すための総仕上げの時期を迎えることから、開業年度の前後に実施すべき施策については、特に重点的に取り組んでいなければなりません。

そこで、金沢魅力発信行動計画の中期評価を踏まえて、今後重点的に取り組むべき施策の方向性を下記の4点に集約し、それぞれの具体的な取り組みを「カウント・ダウンミッション（CDM）」として取りまとめました。

カウント・ダウンミッション（CDM）

- I 都心軸の再整備等の促進
- II 定住促進への取り組み強化
- III プロモーションのさらなる強化
- IV 開業に向けた気運の醸成

新幹線の開業を機に、本市の拠点性をさらに高めるためには、都市機能の充実強化が不可欠であり、そのためにも、その受け皿となる都心軸沿線の再整備等が急がれます。都心軸沿線の再整備等は、もちろん行政主体ではなく、民間の活力によるところが大きいものがありますが、その誘導等に積極的に関与していきます。

新幹線の開業により、まずは交流人口の増加が期待されますが、同時に、定住人口拡大への契機になるものと考えられます。普段は歴史、伝統・文化や自然の豊かな金沢で生活し、用件のあるときだけ気軽に首都圏等を訪れるという新しいライフスタイルの発信に力を入れます。

開業効果を最大限に引き出すために最も重要となるのは、金沢のまちの魅力や情報を効果的かつ効率的に、また、強力に発信することです。新幹線の金沢開業をタイムリーに発信し、広く周知していくために、プロモーションの戦略を練り、着実に実践していきます。

開業の効果を市民全体で享受するためには、何よりも、市民や企業等の開業に向けた準備が必要です。そのためにも、開業イベントの開催などにより、開業への気運を高めて、地域総ぐるみで来街者を迎える態勢を整えていきます。